



國家圖書館編

東亞同文書院 中國調查手稿叢刊

33

國家圖書館出版社

六月四日

六月三日



國家圖書館編

東亞同文書院
中國調查手稿叢刊

33

國家圖書館出版社

第三三冊目錄

昭和五年（一九三〇）旅行日誌（第二十七期生）

根岸孝彥	第五十九卷		一
田添正嗣	第六十卷		一三
池江善治	第六十一卷		二二五
山崎長五郎	第六十二卷		二八七
岡村貞一	第六十三卷		四一五
村山達太郎	第六十四卷		四七九
青山清	第六十五卷		四九九
大屋保義	第六十六卷		五五五
渡部修三	第六十七卷		五九九

東蒙古經濟調查班

旅行日誌

第二十七期生

根岸孝彦

旅行之旅行區間日數及利用交通機關					
出發地	到着地	利用交通機關	行程	日數及時間	滞在日數
上海	青島	汽船	四〇哩	二十九時間	一日
青島	天津	"	三四哩	四十八時間	一日
天津	北京	急行汽車	三九哩	三十三時間	一日
北京	唐山	"	三九・八哩	七十四分	一日
唐山	玉田	陸行	二〇哩	一日	
玉田	北平	自働車	四二哩	二日	
北平	赤峰	陸行	五八哩	七日	二日
赤峰	南魯	"	六八哩	十日	
南魯	八ヶ岳	自働車	一八哩	六時間	
八ヶ岳	鄭家屯	普通列車	二四・八哩	四時間	三日
鄭家屯	洮南	"	三三・三哩	七時間	

北南	昂々溪	汽車	三二〇公里	七時間	
昂々溪	44ハル	汽車	三一・五公里	一時間十分	
昂々溪	ハルビン	急行列車	二七〇・〇公里	七時三十分	二日
ハルビン	長春	普通列車	二四〇・〇公里	八時間	
長春	奉天	〃	三〇四・八公里	五時間	二日
奉天	大連	急行列車	七〇・四公里	七時間	

旅行携帶品

日用品携帶品

一、シヤウ夏物四枚、冬シヤウ一枚、シヤウ一枚、ジャケツハ八枚、途中雨に會つて或ハ靴等非常ニ寒イカウ此方面ニ旅行ニ是非必要ナリ。

一、靴下、半打 価格ハ高クトモ丈夫テ長ク耐久カランモ必要ニシテ特ニ靴下、汗ヲ多ク吸収スルモノ選ビ且陸行中ハニ足ヲ使用スルハ是ニ宜カクテホムナリ又必要カク感ゼス。

4

一、塵紙

一、ハンカチ及手拭

一、歯磨粉

一、楊枝

一、石鹸 洗濯用之必要也

一、髮油

一、剃刀

一、鏡子

一、毛巾 夜ハ煩ガル事を故各人各一枚ヲ必要トス

一、空氣枕 此ハ非常ニ必要又荷ニテスルヲ便利ナル、馬車、汽

車中甚シク必要ナリ

一、靴墨

陸軍中ハ馬車合ヲスルカ必要ナリ

一、刀ヲワシ

一、日昇旗

一、木棉袋衣

コレハ南支那のモノなるに作られたるにシテ一夜ノ安眠ニ必要ナル物なり。作らざる者ハシテハ寝るに不便なり。又シテ防犯の爲めハサシト毎日の如く試みる必要ガヘシテ検査シテトカヘシテ旅行中ノ南支那の如く袋衣中の銅板をシテ毎晩其の如くハカク検査する事ナキナリ要ス。單ニ南支那の如クミナラズ又非常な暑ク風烈ノ事防ニ云。

一、蚊多代衣。コレハ暑熱ヲ支給スルモノトモ古來旅行ニハ不仕用ナリ。
一、メンシシタ。旅行中ノ豆エツケン時又ハおまわりの時必要ナリ。

一、仁丹

旅行中仕用ナリ。

一、胃薬

活コナラズ又極キヒトイ物ヲ食ヘン者消化ヲ助ケン者非常ニ云。

一、アスピリン

野苣苔をわたくしは即ちクシアン許リテん

一、梅干。

一、食塩

こゝは是非必要ナシ。サトウ地ニハ名塩。カアハカヲ持テテ
ラテモヨク。コトナリ。糖油乃至ソー。ス。持テサシハ可ナリ

一、味素

一、砂糖

糖シヲナク。省キ。必要ナリ。五峰——南魯向ハ砂糖ナキ。殆
十休位(七名ニナリ)持ツカ。コト。無日。割。タ。テ。何。用

スベシ。

一、鯉節、米粉糖

陸行中。必要ナリ

一、山イースト

寒冷ニ出。命ヲ。及。海。方。恢復ノ。爲。

一、稀塩酸

生水。又。ト。殺菌ノ。効果。有。テ。ト。リ。多。ク。有。ル。何。レ。モ

湯。カ。ハ。故。不。用。コ。ト。ナリ。又。生。水。池。對。コ。ト。ナリ。カ。ハ

一、ナリヤニ粉

食。カ。ハ。五。峰。地。ハ。馬。店。ハ。何。レ。モ。ナリ。カ。ハ。五。峰

南島向ハ何れニテナリ。王班多將ニ一付衣四ツ半行
 くら必要ナリ。ヤシ等ハ半付衣四ツ半行
 足リ。困却チ勿論高田米。西米ヲ食フエカハ
 良。飢饉ナリ。食糧ヲウツヌカハ

五

五時半起床 食之 今日出帆 準備已終 六時半
才頭付中魚トオシテ首直ニテ 税ヲカウ 七時半 堺外音山
喰ケル 歌ヲ送ル 杉内出帆 菅浦碼頭迄 程五ヤ

續集七八名之見送_レ力_レ下歲_レ裡_二柳_一風_二子_一出_レ筑

五年由旅行隊へ送られ、此處で自らの旅行を記す

ふかたのうそを思ひしやう。人さういふやうな、
333月ノ

是納メト哲シ黃浦江ノ畔ニ

船中よりその人、大鳴笛の如く呼ぶを聞き、眠りて

習待也。他令良人。

五月十一日 土、雨

午中ハ甲板ノ雨ノ出ルヲ不花レヤトシテ時ヲ下
時止メ檢渡ノ船ヲリ直ニ乗セム。班長自乗込リテ不

々々付て申附て移り来り。雨ニ致し雨降り青島、街ノ奥々
 トして並にナリ様々ハ甚る之等ガ如ク格ニ美シク、一時上陸、
 先輩輩改田、富田、内氏之也エラシキ通事協会之行方、傳うる皆し
 同定金取する中枝二期（三期）之石（三期）永料（三期）一三代
 来りしナリ格ニ当地ノ樓閣ヲ圍中又書院ノ所転リ報告ス
 傳ハ青島ノ子陰々々々中枝氏ヨリ思ふナリ西洋科班ノ所転走
 ナリ、昭和七年ノ三期、鈴木氏宅ニ在リ、此ノ所ニ在リ、
 物草ヲ寄越シ、下サリ、ナリ、思ふナリ、感謝シ、今四サレ（二期）
 ノ宅迄行ク、其処ヲ鈴木氏宅ニ向キ、及所々思上格ナリ、鈴木
 氏宅ニ向ク、田下也、人ハ出張中トナリ、此面々ナリ、ナリ
 ナリハ、殊ニ金ノ事、ナリ、ケレトモ奥サシ、下ハモカ、又、御座ナリ、
 ニ、入リ、ナリ、旅ノ夜、ナリ、布、後、置、ナリ、ナリ、布
 團ニナルマリ、ナリ、心、ナリ、迄、知、時、ス。

六月一日 日晴

目覚ましに九時。外に出ると昨夜の気付かたから家後道
が海で積一丈又一丈打ち寄せた白濁合うて人々有難い若人々
が泳ぎ込んで暮るのかマカブ果てりてハナテ暮る。

賛入洋を自働車に送る手踊る協会を二重う皆上着着ッ
七重車、永洲、福南西村、安内、七海泉岬、万年台、砲台跡ヲ
見ん、當時、格好も思ひつゝ又独り人儼然とて科る知識、能く魂を
無條件に感ふん、名をこぼす青島海軍諸場を散々、其所
ナ細カク砂原が、忠魂碑、青島神社、青島中、今も冬観しチ
後、公園のラントエチ青島中学、内外棉、野球試合を見ん、五期
一カ月前の内外、格好が要す指ひてん、中学格好のラントヲ指し
ん、在留邦人、幸福の人の如く、然るに多く、上座在留邦人、ん
元ハ今ウシク教育、体育方面に注意する、お生をせう。